

第十八戰隊日令第二號

昭和十七年六月十二日 旗艦天龍

第十八戰隊司令官職務執行者

海軍少將 丸茂邦則

来ル六月十三日一五〇〇司令官着任本職退任ノ予定
當日ノ儀礼其ノ他ニ関シ尤ノ通定ム

一着任

以禮式

海軍禮式令第六十九條第一號

但シ高等武官ノ序列 准士官下士官兵ノ整列及
衛兵禮式ハ之ヲ行ハズ

四、出迎
幕僚一名 東舞鶴驛ニ出迎

四、伺候
幕僚各艦長ノ順ニ行フ

三、現状申告
各艦長ノ伺候ニ引續キ行フ

二、退任
禮式ヲ行ハス

三、服装
第一種軍装短剣勲章記章全部佩用

水

軍極秘

信令 寫

昭和十七年六月十三日 旗艦天龍

第十八戰隊司令部

第十八戰隊各艦

本文

信令第一三八號

特ニ定メラレタル他當隊限外艦塗粧ニ関シ

尤ノ通試行ス

- 一 艦首尾擬波ヲ画ク
- 二 測距儀及彈藥筐ヲ白色塗粧ス

終

機密第十八戰隊日令第一號

昭和十一年六月十三日 旗艦 天龍

第十八戰隊司令官 松山 光治

軍極秘

一、来ル六月十五日當地發PTニ進出ノ予定

二、自舞鶴至PT回航中作業予定別紙第一ノ通定

三、右回航中全電波戰鬥管制(夜間超短波警戒官
制)トス

四、六月中主要作業予定別紙第二ノ通定

必

機密第十八戰隊日令第一號別紙第一

第十八戰隊自舞鶴回航中作業予定表

九	八	七	六	五	四	三	二	一	新
〃	一九	〃	〃	一八	〃	一七	〃	一五	日
約三十分間	約一時間	二〇〇〇 一九日〇四〇〇	約三十分間	〃	〃	約一時間	(一九四五) 〃	(一〇一六三〇)	開始時刻
旗流信號教練(C法)	戰鬥訓練	編隊運轉成績調査	旗流信號教練(C法)	戰鬥訓練	探照燈信號(敵練)	聯合測的教練	照射教練	航海兵器諸試驗	作業
第八作業三引續キ実施	第五作業ニ全シ	第一艦隊例規所定通	第五作業ニ引續キ実施	第三作業ト同時實施	前半測距整合	令ナクレテ各艦單獨實施	機密第十八戰隊命令案ニ其邦通	西女	領

備考

- 一 訓練中特ニ对替教言戒ヲ嚴ニスベシ
- 二 第三乃至第六及第八乃至第十四作業開始(終了)時刻ハ後令ス
- 三 各作業最大使用速力ハ即時待機速力トス

一〇	一九	約一時間	應急運動訓練	各系統ニ依ルニ應急操縦ニ 二石ノ外航長所定
一一	二〇	〃	聯合測的教練	第三作業ニ合シ
一二	〃	〃	探照灯信号教練 (A 考)	第十作業ト同時實施
一三	二一	〃	戰鬥訓練	航急訓練ヲ加フル外 第五作業ニ合シ
一四	〃	約二十分間	探照灯信号教練 (B 考)	第三作業ニ引續キ實施

一五	二二 三二	後令	補給	作業 予定時刻	作業 領
一六	二四	(〇八〇〇 〇九三〇)	巡視		九、外一隊巡視内規通 二、艦船番号順序各船約 三、分隊長現狀申告ハ行ハズ 三、分隊長檢下同時ニ内視 (上甲板以上)
一七	"	(一〇〇〇 一一〇〇)	訓示		准士官以上旗形ニ参集
一八	後令	後令	御写眞奉拝		
一九	自三三 至三〇日	自三三 至三〇日	通話訓練		日曜及土曜日午後ハ行ハズ

機密第十八戦隊日令第一號別紙第二
第十八戦隊自六月五日
至今三日間主要作業予定表

(終)

信令寫

昭和十七年六月二十二日 旗艦大龍

軍極秘

第十八戰隊司令部

機密第十八戰隊日令第一號中訂正追加左ノ通

六月十七日(夕十四)

機密當隊日令第一號別紙作業日時一日宛
繰下ク

六月二十日(夕十二)

信令第一三五號

第十三作業中主砲第二回射撃教練(偏彈)ヲ
施行ス

使用彈藥 常一

六月二十五日(夕十三四)

信令第一三八號

一、第一三、一四作業ノ開始(終了)予想時刻ヲ〇八〇〇

(〇九〇〇)トス、

二、日令作業ニ第一二〇作業(旗號信號教練ノ法)ヲ追加

シ開始日時ヲ二十五日一三一五トス

要領第一九作業ニ全ジ

六月二十五日(夕十四)

信令第一四〇號

本日午后ノ作業ニ第一二〇作業(陣形運動當直將
校輪番操艦)ヲ追加レ開始(終了)時刻ヲ一四〇〇
(一五〇〇)ト予定ス

水

軍極秘

機密隊大戦隊命令第一七號
昭和十七年六月十九日 旗艦天龍

第十八戦隊司令官 松山 光治

第十八戦隊命令

別紙要領ニ依リ戦闘服装ニ関シ研究ニ
委員長公其ノ成果ヲ来ル七月一日迄ニ
提出スヘシ

(別紙添)

終

機密第十八戰隊命令第七號別紙

戰鬥服裝ニ關スル研究要領

目的

戰訓及作戰地、實情ニ鑑ミ當隊乘員、
最適トスル戰鬥服裝ヲ選定スルニ在リ

二 委員會

委員長

委員

大龍 艦長

參謀

各艦關係科長

三要 領

委員長所定

水

軍極秘

第十八戰隊機密第二五號ノ九一

昭和十七年六月二十日 旗艦天龍

第十八戰隊首席參謀

第十八戰隊各艦長殿

諸件申進

第一段作戰戰訓及現下ノ情勢力ニ鑑ミ細項ニ
關シ依命申進ス

一 戰鬥服裝

戰訓ト作戰現地ノ實情ニ基キ軍艦戰鬥部果
標準草案第一三一ノ趣旨ヲ徹底セシムル最適
ナル服裝ニ關シ委員會ノ研究ヲ待テ一定セラ
ル内意ナリ

二軍機保護

次官、次長、軍務局長、聯合艦隊、四艦隊各參謀長ヨリ屢次ノ申進アリタル通此ノ際軍機保護ニ関シ介隊長ヲ督励シ乗員ノ談話通信文ノ監督指導ニ一層有効適切ナル方途ヲ構シ之ガ萬全ヲ期セラレ度
 電報處理ニ南シテハ第四艦隊機密第九七七番電ノ趣旨ヲ徹底セシメラレ
 一、軍機電報ハ親展電報ト全様着信者以外絶對ニ翻譯セサルコト
 二、電報閱覽ノ範圍ヲ極限スルコト
 三、暗號員ノ指導ヲ適切ニスルコト
 等ヲ励行アリ度

三砲術

イ、速ニ對空射撃術力ノ向上ヲ期セラレ度之カ爲
 兼務員ノ訓練ヲモ行セラレ度
 ロ、水上射撃ノ標的射撃ノ機會獲得ニ努ムルト
 共ニ差當リ偏彈射撃及教育査閲ヲ善用
 セラルル内意ナリ
 ハ、陸戰隊ノ訓練ニ努メラレ度

四水雷術

イ、時機ヲ得次第實射訓練ニ努メラルル内意
 ナリ
 ロ、各基地ニ定泊セハ速ニ縱艇機ヲ真檢シ其ノ
 成績ヲ報告セラレ度

五、航海術

ハ、熱帯地ニ於ケル最適トスル奥備準備ニ関シ
 銳意研究調査セラレ速ニ結論ヲ得ラレ度
 ニ、爆雷戦ニ関シテハ當直將校ニ對シ圖上演習
 等ヲ勵行シ突嗟攻撃ニ関シ萬遺憾ナキヲ
 期セラレ度

ハ、艦位確認ニ関シ航海長ノミナラス各當直將校カ
 一層努力シ保安上ハ勿論作戰上ノ要求ニ
 即應スル如ク努メラレ度
 只、見張信號ニ関シテハ航海長ヲシテ一層ノ熱意
 ヲ以テ特ニ一段ノ進歩向上ヲ期シ工夫努力ア
 リ度

八、運動内規ヲ効行シ著レク距離ヲ延伸スルコトナク
隊形ノ保持ニ努メラレ度

六、通信術

一、通信指揮ヲ適切ニスルト共ニ艦内貴消時ヲ短縮
シ僅少ナル関係員ヲ以テ一層ノ確速達ヲ期セラレ度
二、電話機及輕便電信機ヲ整備シ不時ノ使用ニ
即應スル如ク努メラレ度

ハ、幹部ガ承知セサルニ電波ヲ輻射スル等ノ事
ナキ様嚴重監督セラレ度

七、應急

一、戰訓ヲ活用シ此際艦内全般ニ亘リ再檢對セラ
レ度

ロ、専務應急員ノ僅少ナルニ鑑ミ予メ施行シ得
ル事項ハ之ヲ實施シ時々真檢セラレ度

八 電氣的應急処置ニ関シ特ニ研究工夫シ又各部指

揮ニ任スル者ハ常ニ電池ヲ携帯シ不時即應ノ

姿勢力ニアル如ク指導セラレ度

ニ特ニ火災局限誘爆防止ニ関シ研究準備シ不時

ノ際断乎タル処置ヲ為スニ遺憾ナキヲ期セラレ度

八 機関

機関ノ整備ニ努メ特ニ燃料ノ節約及故障ヲ未

然ニ發見処置スル如ク努メラレ度

九 保健

伝染病地方病ノ予防ニ努メ疲勞防止ニ関

シ工夫努力アリ度

口毎月頭乘員一同ノ体重及肺活量ヲ検測シ

其ノ成績ヲ提出セラレ度
八 武技相撲及體操ノ實施ニ努メラレ度

十 糧食

現地ノ實情ニ鑑ミ乗員唯一ノ慰安ナルト共ニ
健康ノ維持ニ至大ノ關係アルヲ以テ調理ニ
層ノ工夫ト努力ヲ望ム

十一 研究調査

作戰現地ハ未詳且廣々報ニ亘ルヲ以テ現ニ各艦
ニ分担研究調査セラレラル事項ノ他尙クモ
調査研究ヲ可トスル事項ハ作戰ノ情況許ス
限リ資料ノ蒐集ニ努メ事後ノ作戰又ハ空營

0146

ニ資スル梯努メラレ度

終

機密第十八戰隊訓示第三號

昭和十七年六月二十五日 旗艦 天龍

軍極秘

第十八戰隊司令官 松山 光治

着任ニ際シ麾下准士官以上ニ訓示

今回揣ラスモ不肖當戰隊ノ統率ヲ命セラレ其
ノ光榮ト責任トニ感激シ麾下將兵ト共ニ忠誠
奮鬪以テ其ハ任ヲ完ウセム事ヲ深ク期スル次
弟ナリ

當隊ハ所定ノ整備ヲ完了シ其ノ兵備一段ト
 増強セラレ乘員一同清新ノ意氣ヲ以テ茲ニ
 再ニ南方ノ熱暑ト瘴癘ニ抗シ殘敵殲
 滅ニ任スヘク士氣愈々旺盛ナルヲ認ムルハ本職
 ノ最モ欣快トスル所ナリ
 今ヤ敵ハ漸ク活潑トナリ開戦以來全軍待
 望セル海上戦闘ノ好機ヲ捕捉スルヲ得タトスル
 情勢ニ到レリ
 本職ハ前司令官ノ指道方針ヲ踏襲シ特ニ

一眞ノ人和ニ依リ與隊協力スルコト
 二戰鬪ニ於テハ作戰ノ要求ニ即レ被害大ナル
 場合ト雖モ敢然ニ所信ヲ断行スルコト
 ヲ基調トシ次期作戰ニ備ヘ差當リ
 一各種基礎實力ノ練成
 二對潛對空攻撃手力ノ向上
 ヲ目途トシ猛訓練ヲ施行セムトス
 諸官ハ作戰上制肘セラルル各種障碍ヲ克
 服シ周到ナル計画ノ下ニ寸暇ヲ活用シテ

演練ノ勵行ニ努メサル可ラス
 過ルニ旬其ノ情况ノ急變セルニ鑑ミ
 自愛自重倍々身體ヲ強健ニシ特ニ
 見張警戒ニ萬遺憾ナキヲ期セヨ

軍極秘

機密第十八戰隊命令第一八號

昭和十七年六月二十七日 旗艦 天龍

第十八戰隊司令官 松山 光治

第十八戰隊命令

第十八戰隊避雷航行實施規程別紙ノ通定
之ヲ試行ス。

(別紙添)

張

機密第十八戰隊命令第二八號別紙

第十八戰隊避雷航行實施規程

- 一 外航電路裝置ヲ避雷裝置ト呼稱シ避雷裝置ヲ使用航行スル場合之ヲ避雷航行ト呼稱ス
- 二 避雷航行ハ磁気機雷敷設ノ顧慮アル海面ニシテ水深六十米以内ニ於テ實施スルヲ例トス
- 三 避雷航行ノ實施時機及要領ヲ左ノ通定ム
 - (一) 開始(終止)ノ時機
 - (二) 防雷航行開始(終止)ノ時機
 - (三) 右以外必要ナル場合
- 四 實施施要領

順序	下令事項	信號電話	記
一	避雷航行用意	信号書	行動毎ニ於ケル所要電流量ヲ算定シ所要 回路ヲ決定ス
二	避雷航行始メ	(暗号書)	転極器ヲ接トシ避雷航行ヲ始ム
三	避雷航行止メ	充足ニ依ル	転極器ヲ断トシ避雷航行ヲ止ム
<p>四、各船ハ地磁気等垂直力線圖及通電量地域調整 線圖ヲ準備シ行動地域ニ應シ適當ナル電流量ヲ 算定使用スルモノトス。</p> <p>五、絶縁試験極性試験ハ尤ニ依ル</p>			
名稱	時	機	記
絶縁試験	(1) 毎月 (2) 荒天航行直後 (3) 其他必要ト認めル時		絶縁試験成績ヲ記録シ整備ノ指針トス
極性試験	電路修理結線 換實施毎ニ		各回路毎ニ通電シテ極性確認ス

水

機密第十八戰隊命令第一九號

昭和十七年六月二十七日 旗艦天龍

第十八戰隊司令官 松山 光治

第十八戰隊命令

各艦長、別紙避雷航行部署標準草案(附避雷裝置の説明並ニ取扱一般)ニ基キ避雷航行部署ヲ策定施行スヘシ

(別紙添)

(終)

軍極秘

機密第十八戰隊命令第一九號別紙

避雷航行部署標準草案

(附) 避雷裝置、說明、取扱一般

第一要旨

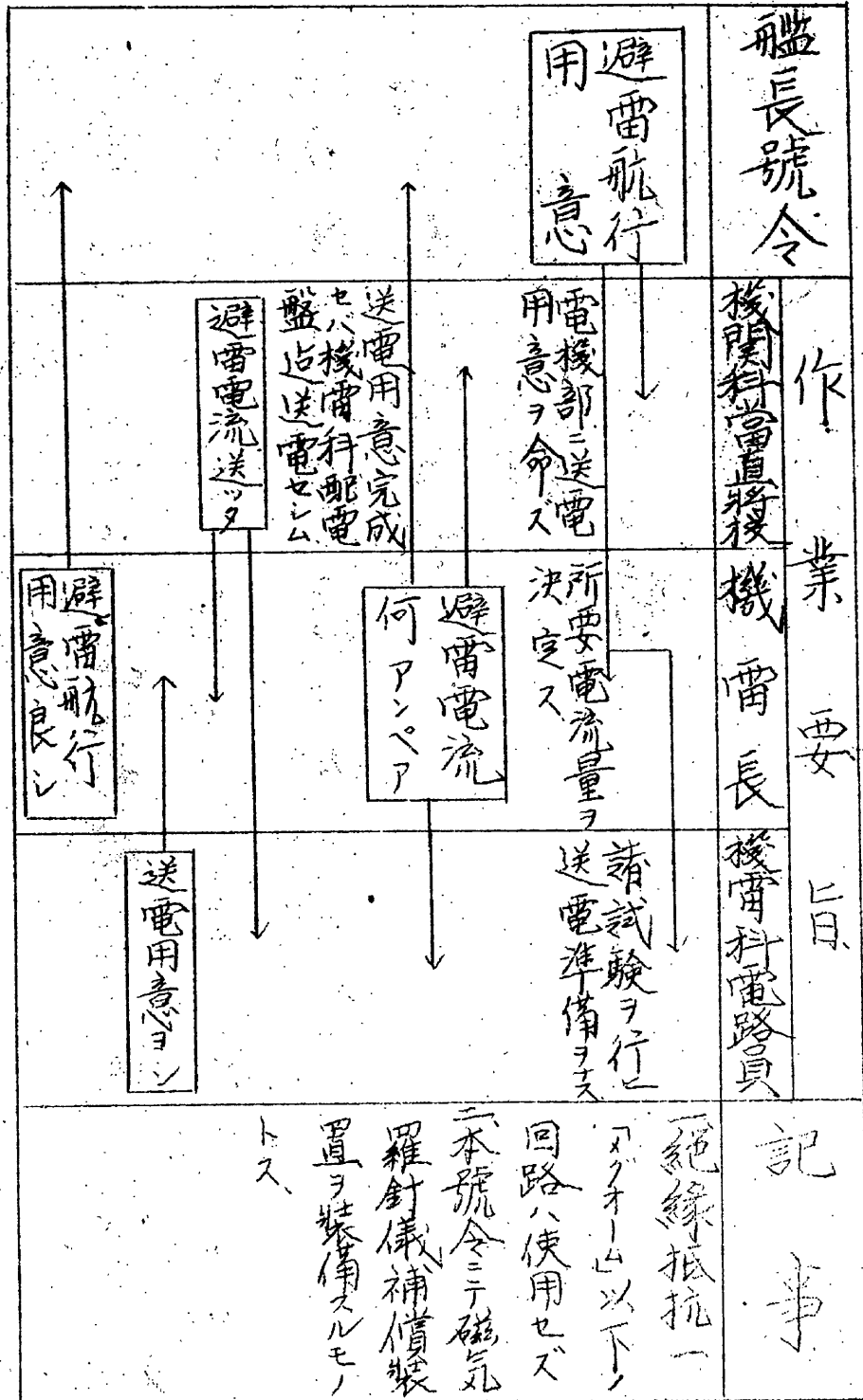
避雷航行ノ要旨ハ磁気機雷ニ依ル被害ヲ
避クルニ在リテ尤ノ場合之ヲ實施ス

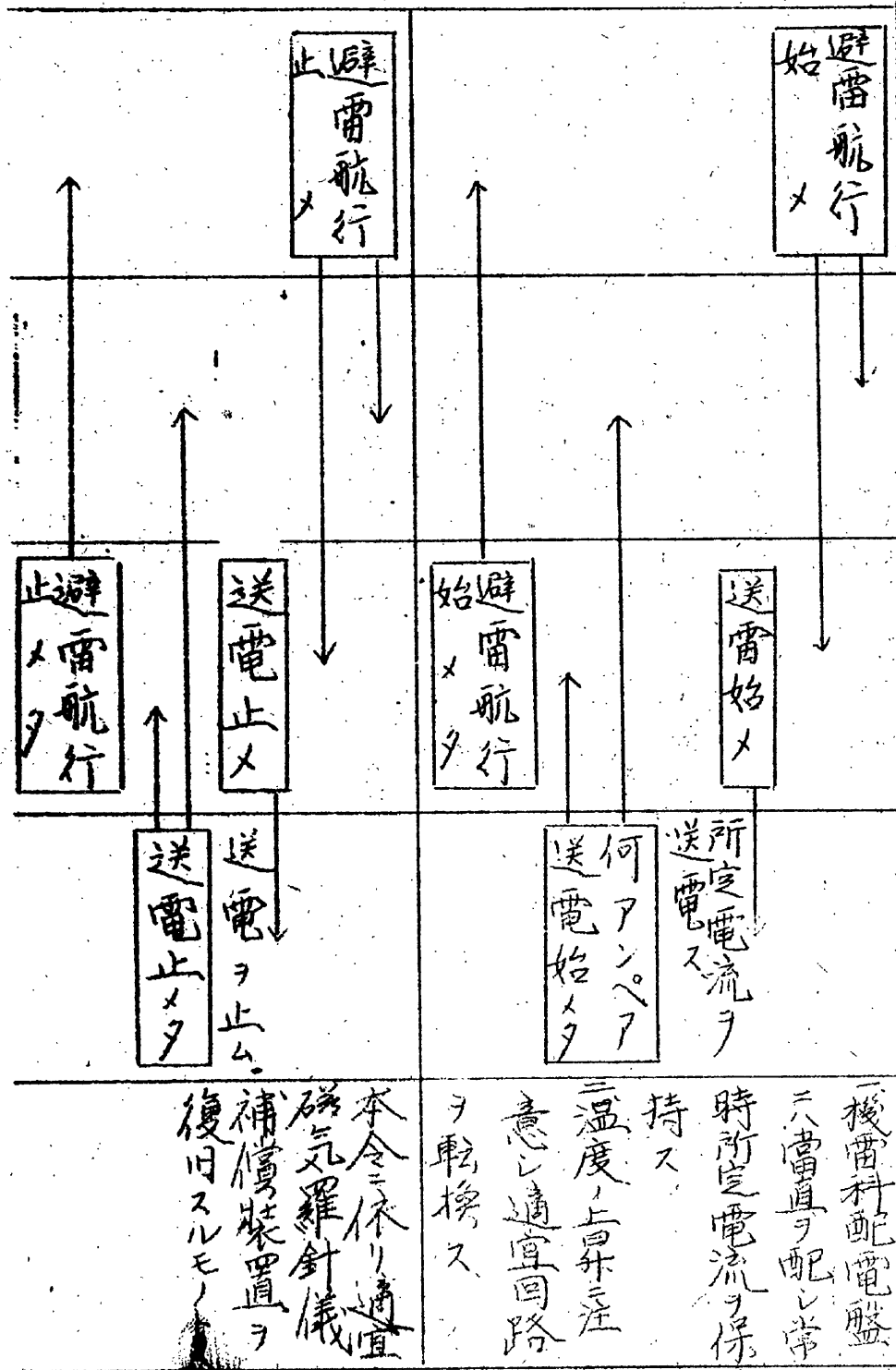
一磁気機雷敷設ノ虞アル水深六十米以内ノ海
面ヲ航行スル時

二防雷航行時

三其ノ他必要ナル時

第二號令ニ依リ作業





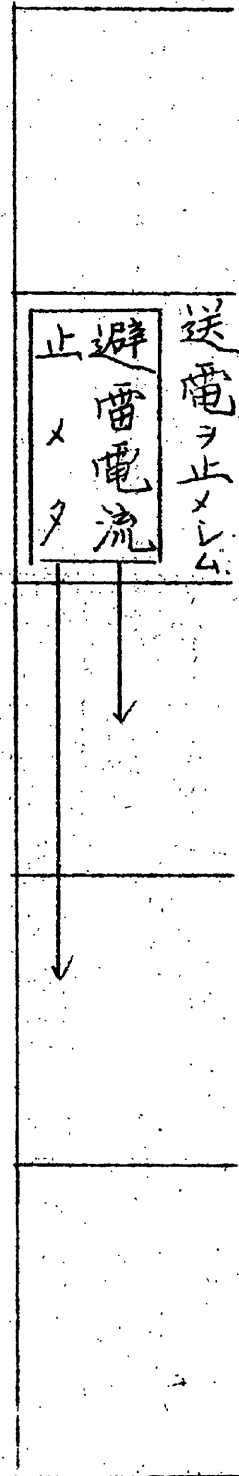
(附)

避雷装置ノ取扱一般ニ説明

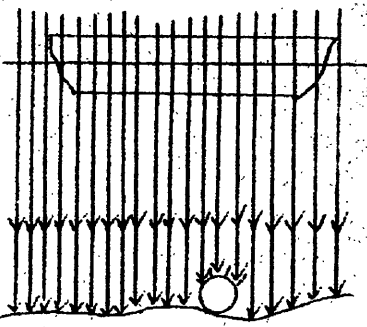
一 避雷装置ノ原理



- (一) 機雷上方ニ艦艇(導体)ナキ場合ノ地磁気垂直分力(磁力線ノ数)
- (二) 磁気機雷ハ地磁気垂直分力ニ変化ナキヲ以テ爆發セズ



(10)



(一) 機雷上方ニ艦艇(導体)アル場合ノ地磁気ノ垂直分力(磁力線ノ数)
 (二) 磁気機雷ハ地磁気ノ垂直分力増大セルヲ以テ爆發ス

(1) 避雷装置ノ用途ハ地磁気ト反方向ノ磁石ヲ生セシメ

地磁気垂直分力ヲシテ変化(増大)セシメザルニ在リ

(二) 之ガ爲北半球(南半球)ニ在リテハ時計ノ針ト反方

向(同方向)ニ舷外電路ニ送電セバ可ナリ而シテ所要

電流量ハ緯度捲回数各艦ニ依リテ異ル

二 避雷装置一般

(1) 電線ハ七心線ノモノ七回路(回路内心線直列各回路

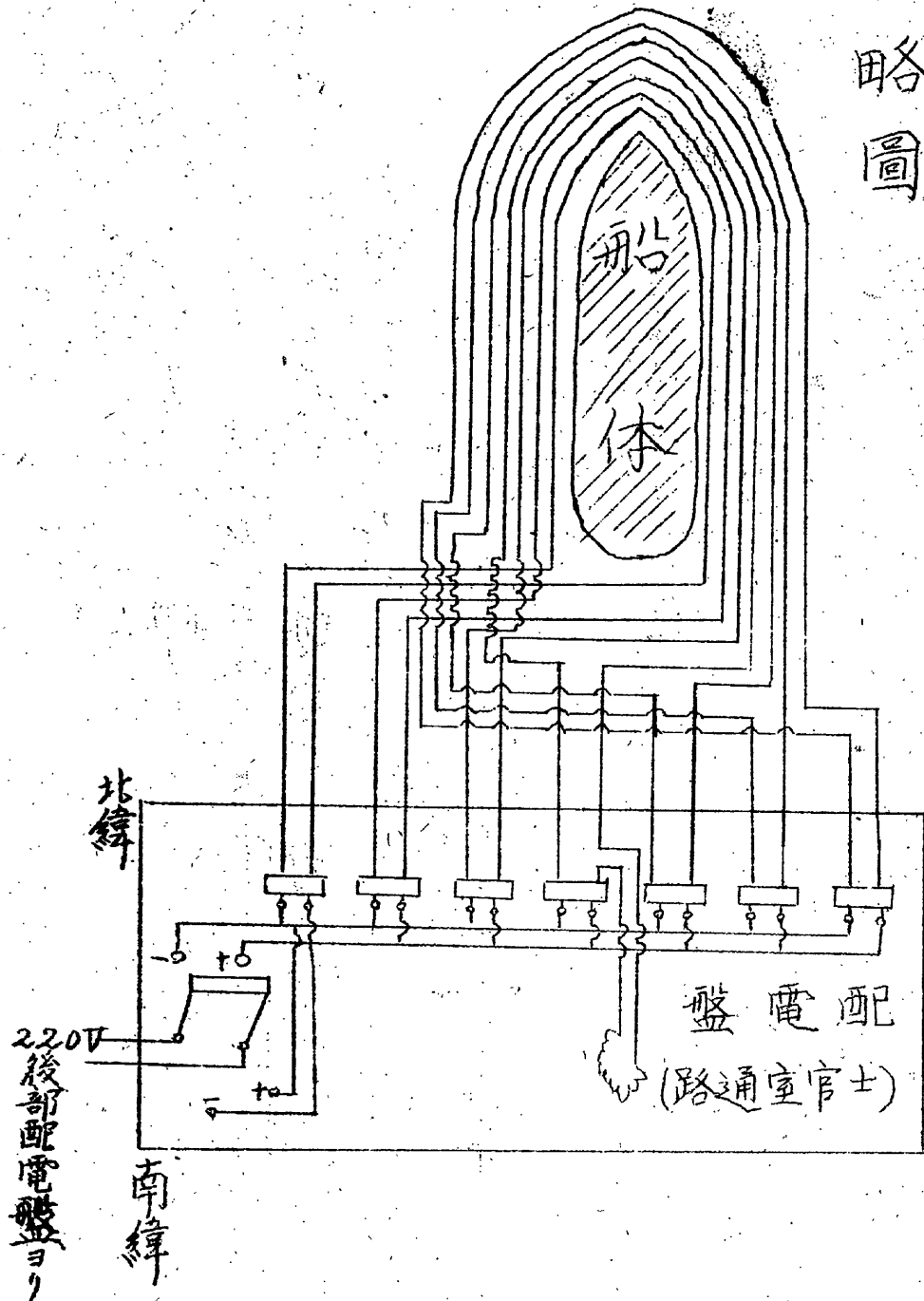
並列)

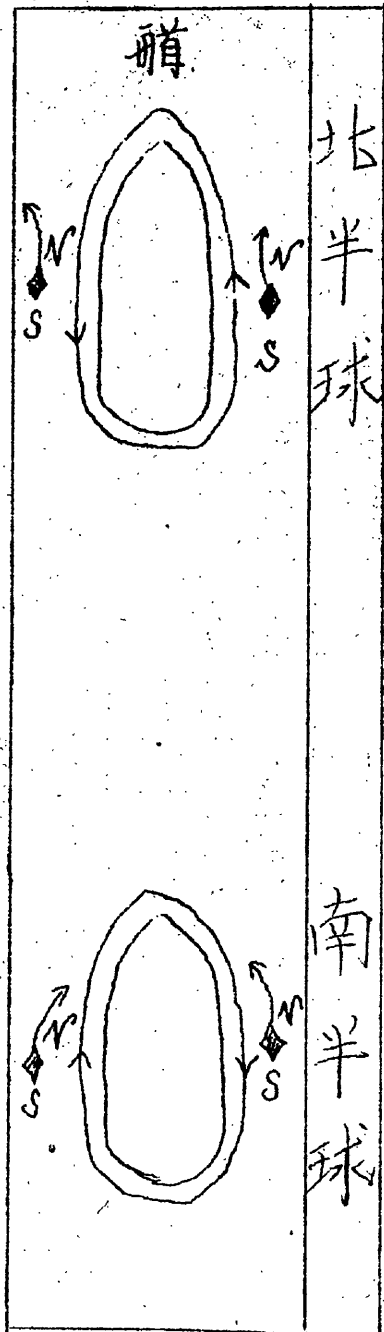
1910

一回路ノ許容最大電流量三五アンペア合計ニニ
アンペア
(註) 数值ハ一例ヲ示ス

0162

略圖





三、避雷装置通電方法判別法
 避雷装置ノ通電方向ヲ判別スルニ短艇羅針儀ヲ
 使用スルヲ便トス。即チ短艇羅針儀ヲ舷外電路
 ノ上方至近ノ距離ニ置キ送電スル時磁針ノ北端が
 艦ノ外舷ニ旋回セバ通電方向ハ時計ノ針ト反方向
 ニシテ内方ニ旋回セバ時計ノ針ト同方向ナリ。

0164

塗	避	主	區	四
粧	雷	管	分	避
該	機	機	受	雷
外	雷	雷	持	装
航	科	長	持	置
受				ノ
持				保
分				管
隊				々
				理

飛

軍機

機密南洋部隊支援部隊乙支隊命令作第一號

昭和十七年六月二十八日 旗艦天龍

南洋部隊支援部隊乙支隊指揮官 松山 光治

南洋部隊支援部隊乙支隊命令

SN作戦中、南洋支隊通信ハ機密南洋部隊支援部隊命令作第一號所定ノ外ニ依リ之ヲ實施ス

一聯合送受信配備

東通放送 四一七五(下二四) 八三五〇(下一五)	種別	電波		記 事
	KC (番號)	分	担	
		0	II	特令ニ依リ撤員スルコトアリ

備考 (ハ)送受○ハ受信担任 △ハ特令ニ依リ配員スルヨ (本)配備ノ適用ヲP.T出撃後トス	Y 聖川丸	四通地方系	Y GS 乙種	Y 259 乙種	Y 44 甲種	八 通地方系	四 通放送	4 F 一般短波	A 4 F 短波	
	六〇四〇(夕二四四〇)	一五八〇(夕ウ四五二)	五八九五(夕ヒ一四〇) 四一七(ヒ一四)	九三〇〇(夕ヒ七五二) 九三〇〇(夕ヒ七五二)	七九七〇(夕ヒ四)	六四一五(ヒツ四五)	九四七二〇(夕六二) 九四七二〇(夕六二)	九四八〇(夕二二〇) 九四八〇(夕二二〇)	四二九二、五(夕一七)	一六七〇〇(下二六)
		◎	△	○	△	○	○	◎	△	
	△				○		○	○		

二敵信傍受利用

(一) 敵基地航空機通信ノ傍受ヲ主トシ特ニ有利ニシテ
 實地可能ト認ムル場合ニ於テノミ特令シテ敵艦
 船(特種水艦)母艦航空機通信ノ傍受ヲ行フ
 四實施要領

(一) 傍受分担

奇数日 旗艦 偶数日 日ニ番艦(交代ヲ
 待受電波六三六〇KCノ外各艦長所定
 (〇六〇トス)

(二) 配員時機

(特令ナケレバ) 2日以後配員
 日出前三十分ヨリ日没後十五分迄トシ特令シテ夜
 間モ配員セシムルコトアリ

(三) 報告(通報)

重要ナル敵情ヲ得タル場合其ノ都度 然ラザル
 場合ハ夕刻(日没前)情況ヲ報告(通報)スルモノトス

(四) 其他各艦長所定

(一) 捕捉敵信竹報團(目標) (順位ハ重要度ヲ示ス)

(一) 六三六〇 KC (北濠空軍基地及航空機)

(二) 七七七二 KC 七三六五 KC 六三一六 KC 四二四五 KC (濠洲派遣未陸)

空軍卜推定)

(三) 八四七〇 KC (英米艦船)

(四) 四二三五 KC (米潜水艦)

(五) 四七〇〇 KC 三九四〇 KC 七三八五 KC 二六〇〇 KC 一三三一五 KC 八四一〇 KC

五三八五 KC (濠空軍基地)

(六) 四二六五 KC 二七五五 KC 一三七〇五 KC 一三七九五 KC (潜水艦又ハ艦船)

張